

地球にECO(いーご)としよう



省エネグループ通信



出前授業 「はっぱはえらい」の依頼が増えている！！

今年度、12月末までに市内小学校延べ21校で出前授業を実施することができました。例年と同様に「温暖化とは～見て・触れて・感じて～」のプログラムの要望が多く、多くの学校から有りました。特に今年は、COP21開催年でもあり、CO₂排出量削減がどう決まるか重要な会議で非常に関心の高いことも要因になっていると思われます。私たち省エネグループとしても、将来を担う子ども達に地球温暖化とは何か、その原因やメカニズムを理解し、これから先どう予想されているのか、どの様にしたら少しでも温暖化を抑えていけるのかを、理解して行動に繋げてもらいたいために授業をしています。その結果は、授業後のアンケートからも子ども達なりに理解して考えてくれていることが、うかがえます。今感じたこと、自分で取り組もうと考えたことが、定着してくれることを願っている次第です。

特に今年の特徴としては、「はっぱはえらい」のプログラムの希望が多く、特筆すべきことです。葉っぱが、光合成する時に空気中のCO₂を吸収して温暖化を防ぐことに貢献してくれていること、自然を大切

にする心の育成に繋がることなどによるものと推測しています。校庭に出てマイツリーを決めて、その木の幹の太さを測定することでCO₂吸収量が求められること、その木はどれ程みんなに役立っているかを知って、驚きと感動が子ども達の表情から伝わってきます。これからも大事にしていきたいプログラムです。

「節電にみんなで取り組もう」のプログラムも、多くの希望が有ります。温暖化を少しでも防ぐために、子ども達が取り組める内容となっていることが一因ではないかと感じています。

後半から追加した「水素が地球を救う！燃料電池とは」のプログラムも授業をすることができました。このプログラムは、これからもっともっと内容に磨きをかけていきたいと考えています。

また、授業した内容をキッカケにして、自分達で課題を見つけて、調べて、まとめて、校内での発表会、文化祭で発表をしてくれています。これも嬉しいことで、益々力を入れて出前授業に取り組んで行かなければと考えています。



幹の太さを測り、CO₂の吸収量を計算



葉っぱをビニール袋で包み、蒸散を目視



温湿度計で蒸散の効果を観察

夏休みエコライフ・チャレンジ 2015 後報

今夏のチャレンジには 17 校、1136 名(ほぼ前年並み)の児童が参加しました。2015 年の夏も各地で連日のように猛暑日・真夏日が続いた中でのチャレンジでした。(図-1 参照)

【チャレンジの結果】 必須の 9 項目と自ら選ぶ 2 項目を加えた 11 項目につき「よくできた」の結果は 9 項目では 66.7%、11 項目では 81.6%で、14.9%飛躍的に向上しました。

今夏のエアコンの 28℃設定は「よくできた」61.6%、「出来なかった」11.6%で、かなり難しかったようです。

【アンケートの結果】「家族で話合ってチャレンジした」が 51%と初めて半数を超え、家族みんなで取り組む意識の高まりがうかがえました。

【節電効果】 回答のあった 484 件の 7, 8 月の電力使用量の昨年との比較では、減ったのは 180 件、増えたのは 304 件(63%)でした。猛暑によるエアコンの使用が大きく影響したためと思います。

全体の使用量では 8,167kWh(4.4%)の増加でした。

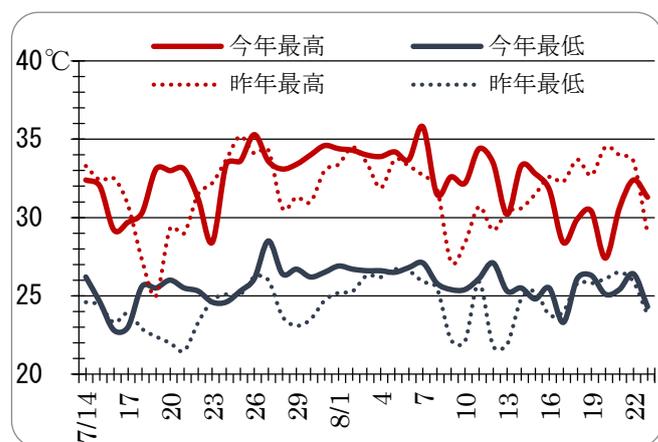
【二酸化炭素削減効果】 チャレンジ 7 日間の全体

の削減効果は推計 3,190kg-CO₂ でした。

【子どもたちの質問】 特徴的なのは温暖化に関する質問が多く、関心や危機感が高まっています。全 124 件中「温暖化問題 67(54%)」「節電の必要性 19(15%)」「家電の省エネ 14(11%)」「エコ対策 7(6%)」以下「発電・原発」「化石燃料」などでした。

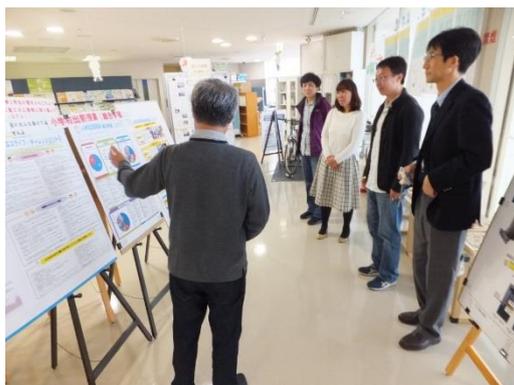
COP21で約束されたことを踏まえてわたくしたちもこれからは温暖化防止に向けて“できることからやる”から“やるべきことをやる”という意識をもってエコライフを実践しましょう。

図-1 [今年と昨年の気温の比較[資料:横浜気象台=横浜地域]



CCかわさき交流コーナーでの展示

川崎市地球温暖化防止活動推進センター11月のテーマ展示「省エネ」に、省エネグループは省エネの活動紹介と夏休みのエコライフ・チャレンジに関する市内の小学生とその家族の取り組みの実態や寄せられた感想などを掲示しました。小学生はこのような頑張っている、市民の皆さんもこの頑張りぶりをみて率先垂範してほしいというアピールをしました。また、展示期間中に中国の瀋陽市からの環境に関する研修生も立ち寄られ、この内容に大変興味と感心を示されていました。



イベント「科学とあそぶ幸せな1日」

9月12日新川崎K²タウンキャンキャンパスでのイベントに参加しました。プログラムは①手回し発電で各種電球の省エネ・節電効果の体験とワットワームーターを使っての消費電力・電気代及びCO₂排出量の計測 ②模型を使った燃料電池の仕組みの展示 ③体験工作“クリップモーターを作ろう”です。①では“LEDの省エネ効果にびっくり”と“三つ豆電球を使って、明りをこまめに消す節電の大切さ”②では次世代の水素エネルギーに寄せる期待、③では電気を作りだす仕組みや電気のはたらきなど家族みんなで楽しく学びました。



温室効果ガス 実質排出ゼロ社会をめざす

11月30日からパリで開かれていた国連気候変動枠組み条約の第21回締約国会議(COP21)は12月12日夜、2020年以降の地球温暖化対策の国際枠組みを定めた「パリ協定」を全会一致で採択した。全196カ国・地域が温室効果ガスの削減に参加し、化石燃料に依存しない社会をめざすことになった。

パリ協定の骨子を以下にしめす。1つは温暖化対策の長期目標だ。「産業革命前からの気温上昇を2℃よりかなり低く抑える」ために、「温室効果ガスの排出を今世紀後半に人為的な排出と吸収を均衡させる」と明確にした。即ち「実質排出ゼロ」をめざすということだ。さらに「1.5℃未満に抑えるよう努力する」も目標としている。このためには、実質排出ゼロを前倒して実現する必要があり、化石燃料に頼る時代を終わらせることを意味する。

2つ目は、長期目標の達成に向けた定期的な点検と見直しの仕組みだ。各国が提出した目標を足し合わせた効果を5年ごとに世界全体で点検し、その結果を受けて自国の目標を更新し、対策を徐々に強化する。

合意された排出の削減や抑制は自主的な取組とはいえ、途上国も参加する。先進国だけに削減を義務付けた京都議定書から大きく前進した。温暖化への危機感を世界が共有して踏み出す第一歩である。

188カ国・地域が削減目標を掲げたが、すべての国が達成できても気温上昇は2.7～3.5℃になるという試算がある。2℃未満にするためには、各国は5年ごとに自国の目標を点検し、引き上げていくことになる。

日本は、2030年度の温室効果ガス排出量を「13年度比26%減」とする目標を掲げ、「50年には80%減らす」という長期目標も閣議決定している。パリ協定採択を受け、政府は温暖化対策の実行計画づくりを本格化させる。「26%」の削減目標は、総電力量の2割超を原発でまかなう電源構成が前提。政府は、再生可能エネルギーと省エネの推進も掲げ、「エネルギー・環境イノベーション戦略」を来春まとめる方針だ。環境相の私的懇談会である「気候変動長期戦略懇談会」では、「温暖化を防ぐためには、省エネを進め、すべての火力発電所にCO₂の回収・貯留(CCS)設備をつける」、さらに「経済と温暖化の課題を同時に解決する政策として、排出量取引や炭素税などの炭素の価格付けがある」との提言案をまとめた。

パリ協定の骨子

1. 世界全体の目標

- ・気温上昇を2℃よりかなり低く抑える。1.5℃未満に向けて努力。
- ・今世紀後半に温室効果ガスの排出と吸収を均衡させる。

2. 各国の削減目標

- ・作成・報告、達成の国内対策を義務化。
- ・5年ごとに更新。後退させない。

3. 途上国への支援

- ・先進国に拠出を義務化。
- ・途上国に自主的な拠出を奨励。

4. 温暖化の影響への対策

- ・被害の軽減策を削減策と並ぶ柱に。
- ・途上国で起きつつある被害の救済策に取組む。

“COP21” 夢
Mのいのち



2004年に川崎市「緑の景観づくり軸線事業」の一環で整備された吹込花壇に2009年から生ごみ堆肥の効果を確かめるため、一部の花壇に入れさせてもらっていた。その後従来のグループが解散したため、すべての花壇に生ごみ堆肥を入れるべく、また抜いた苗などをごみに出さないで堆肥化し、できるだけ環境にやさしい取り組みをしようと花好きのメンバーが集い「吹込クローバーの会」が発足。

肥料分は台所から出る生ごみで作る堆肥だけ。土壌改良には、自家製腐葉土を活用し、殺虫剤、殺菌剤は一切使わず、その結果、カタツムリ、ナメクジ、ダンゴムシなどいるが、それを捕食するカナヘビなどの小動物や昆虫も棲息し、バランスを保っている。チョウチョが舞い、ミツバチが飛ぶ楽しい花壇だ。



発足1年目の2012年の春に「かわさきわがまち花と緑のコン

クール」で思いがけず大賞を受賞し、活動に弾みがついた。それから毎年賞をいただき、2015年は川崎市公園緑地協会の推薦を受けて「全国花のまちづくりコンクール」に応募し、1624団体のうち15団体の最終現地審査に残り、花のまちづくり優秀賞をいただいた。メンバー一同大感激。



嬉しいことがもう一つ。他地区の花壇活動団体が見学に訪れ、生ごみ堆肥の効果を目の当たりにし、生ごみリサイクル講習会を希望して、さざ波のように生ごみ堆肥花壇が増えていること。我が家での生ごみ堆肥化は25年になるが、「生ごみ堆肥」が当たり前になる日を夢見てこれからもエコな花壇の手入れをしていきたいと思う。

—ご意見をお寄せください—

本紙に対する、ご意見、ご要望、ご感想、更には皆様のエコ情報・体験などを下記へお寄せください。皆様と共に、地球環境を維持するため、「楽しく、かっこよく、得する」エコを実践していきたいと思っています。

連絡先

川崎市地球温暖化防止活動推進センター 省エネグループ
〒213-0001 川崎市高津区溝口1-4-1 ノクティ2 高津市民館内
TEL 044-813-1313 FAX 044-813-1350

E-mail : office@kwccca.com

ホームページ : <http://syo-ene-group.sunnyday.jp/homepage/>

発行責任者 : 省エネグループ代表 八木洋一

